

# 榛名神社社報



## 榛名神社由緒記

### 御祭神

はにやまひめのみこと  
埴山姫命 (生命守護・五穀豊穡の神)

やまとたけるのみこと  
倭建命 (開運・土地守護の神)

すがわらのみちざねのみこと  
菅原道真命 (学問守護・災難厄除の神)

たけみなかたのみこと  
建御名方命 (産業守護・健康長寿の神)

おおくにぬしのみこと  
摂社・末社

大國主命 (商売繁盛・良縁結び・病氣平癒・交通安全の神)

琴平宮・熊野社・稲荷社・産泰社・五柱社  
巖島社・加茂社 面美様

元縣社・利根沼田総鎮守

沼田氏、真田氏・本多氏、黒田氏、土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々が今も保存されている。特に本殿は享禄二年(1529)沼田顕泰の建立、元和元年(1615)真田信之により改築され、豪壮華麗な桃山文化を今に伝える。

発行日 平成二十五年七月十五日  
発行所 沼田市榛名町二八五一  
電話〇二七八(2)二六五五  
http://harunamori.com/  
発行人 金子浩隆

## 第六十二回神宮式年遷宮

### 遷御の儀 日時御治定

天皇陛下が第六十二回神宮式年遷宮の遷御の日時を決定される御治定(ごじじよう)があり、遷御は皇大神宮(内宮)で十月二日午後八時、豊受大神宮(外宮)で十月五日午後八時に齋行されることとなりました。

遷御(せんぎよ)とは、大御神様(おおみかみさま)が本殿から新殿へとお遷りになる二十一年に一度行われる遷宮の中核をなす祭儀で、まさにメインイベント・クライマックスです。

夜の帳が下り、松明が焚かれ、提灯と月明かりの下、百五十名あまりの祭員が奉仕。大御神様のご神体は大宮司、小宮司、禰宜に奉戴されて純白の絹の垣に秘められて、おそかに本殿から出御、渡御、そして新殿へ入御されます。

天皇陛下には遷御に際して勅使を派遣され、ま



《遷宮絵巻》

た出御の時刻には宮中の神嘉殿の前庭から、はるかに伊勢の方を御拝されるそうです。また、前回は皇族を代表し、秋篠宮殿下が参列され、参道沿いでは各界の代表者を始め特別参拝者が大勢、祭儀を見守りました。

## 「お白石持ち行事」に参加

お白石持ち行事に参加します。全国から五万人以上が参加する(前回は約二十一万人が参加)「お白石持ち行事」。



宮川河原から参集した「お白石」を御木曳同様に陸曳、川曳きで運び、正殿用地に敷き詰める行事で、遷御後には絶対に立ち入ることのできない、正殿そばまで入ることができます。八月十一日、沼田利根支部六十五名で奉仕参加して参ります。

## 榛名神社神輿奉賛會の半纏と手拭

### 今年の祇園祭からお目見えの予定



【半纏の色は紺色、手拭いは鮮やかな朱色】

真田家の紋「六文銭」は戦場に赴く際の決死の覚悟を家紋・旗印としたものという説、冬の天上にあわく輝くスバル星(プレアデス星団)を旗印にしたという説などがある。



【六文銭】がしるされている。

## 平成二十五年八月三・四・五日 祇園祭執行について

左記の通り、祇園祭についての日程等をご案内申し上げます。

### 一、日程

八月二日(土)	午前七時二十分 神璽奉遷・神輿発幸祭	榛名神社
	午前八時 車にて渡御 榛名神社→薄根町→清水町→榛名町→西倉内町→東倉内町→材木町→西原新町→東原新町	氏子区域
	午後一時頃 上原町→桜町→高橋場町→柳町	氏子区域
	午後三時 柳町祭典事務所着	柳町祭典事務所
	午後三時三十分 奉仕団により渡御、柳町を出発	仮宮
	午後六時 仮宮着御祭	仮宮
八月四日(日)	午後五時 恒例大祭	仮宮
八月五日(月)	午後四時三十分 還幸祭	仮宮
	午後五時 奉仕団により、還御	
	午後八時 須賀神社神輿との競演	市役所前広場
	午後十時 宮入り・本殿着御祭	榛名神社
一、本年度当番町	西原新町 (来年度当番町)	桜町
一、仮宮	西原新町	土田商店となり

## 新奉製の六文銭の「手拭」と「半纏」